

ほくじょう 牧場の
なか ま 仲間たちの
はなし お話

か 代わりの ちち おや 父親の あい 愛



わたしの ^{りょうしん}両親は、^{な や}納屋で ^がチャボを ^か飼っていました。おんどりが
1羽と、めんどりが ^わ10羽ほどです。ある ^{なつ}夏の ^{こと}こと、^わ3羽の ^{めんどりが}めんどりが、
チャボの ^{ヒヨコ}ヒヨコを ^{かえ}かえしたいという ^{こと}ことになりました。それは、
^{べつ}別に ^か変わった ^{こと}ことでは ^あありません。毎年 ^{まいとし}夏には、^{なん}何羽かの
^{めんどりが}めんどりが ^{たまご}卵を ^{あた}温めたがります。

けれども ^{とき}この時は、^{たった}たった ^{いっ}1個の ^{たまご}卵を、^{この}この ^わ3羽の ^{めんどりが}めんどりが
^{みんな}みんな、^{あた}温めたがったのです。何てまあ、よく ^{なん}世話された ^{たまご}卵なんでしょう！



^{しゅうかん}3週間 たつと、^{たまご}卵は かえって、^{なか}中から
かわいらしい チャボの ヒヨコが
て 出てきました。

ヒヨコが かえると、ふつうは めんどりが
^{ねっしん}熱心^{せわ}に 世話を します。そして、ヒヨコを
^つ連れ^{ある}歩き、えさや ^{みず}水の ^{さが}探し^{かた}方を ^{おし}教えます。
けれども、この ^{たまご}卵が かえった ^{とき}時は、めんどりが
みんな、どこかへ ^い行ってしまったのです。
みんな、ほかの めんどりが この ヒヨコを
^{せわ}世話すると ^{おも}思ったのでしょう。取り残された
かわいそうな ヒヨコは、^{じりき}自力で ^い生きて
いかなければ なりませんでした。

でも、心配は ^{しんぱい} ご無用！ ^{むよう} すぐ そばに、若い ^{わが} レグホンの おんどりが ついていましたから。別の ^{べつ} 囲いで ^{かこ} 母が ^{はは} 育てていた ^{そだ} 8羽の ^わ
おンドりの ^{うち} 内、1羽が ^わ いつも ほかの おんどりに いじめられていたため、母が ^{はは} その ^{わが} 若い おんどりを ^{かこ} 囲いから ^だ 出して ^な 納屋に ^や
^{うつ} 移したところ、この ^{ひとり} 一人ぼっちだった おんどりが、小さな ^{ちい} 見捨てられた ^{みす} ヒヨコを ^み 見て、^{おや} 親代わりに ^が なってあげたのです。

その おかげで、この ^{ちい} 小さな チャボの ヒヨコは、^{つよ} 強く ^{じょうぶ} に ^{そだ} 育ったのでした。

^{ちち} 「父が ^こ その ^き 子を ^き 気づかうように、
^{しゅ} 主は、^{じぶん} ご自分を ^{しんらい} 信頼する ^{もの} 者を
^き 気づかったださる。」(聖書、
^{せいしょ} 詩篇 103:13を ^わ 分かりやすく
^い 言いかえたもの)